

数学セミナー 04・83

昭和58年4月1日発行/毎月1回1日発行/通巻257号/昭和37年4月3日第3種郵便物認可/昭和38年12月6日国鉄東局特別扱承認雑誌第1701号

特集/数学入門ア・ラ・カルト 数理工学への誘い——甘利俊一 直線とはいったい何か?——大森英樹
算数の世界——岡本光功 ヒステリシスの効用——WeSa 6
複素数にしたしむ——田村二郎 ものは考えよう——丹羽敏雄 ヒトの“成長直線”——増山元三郎

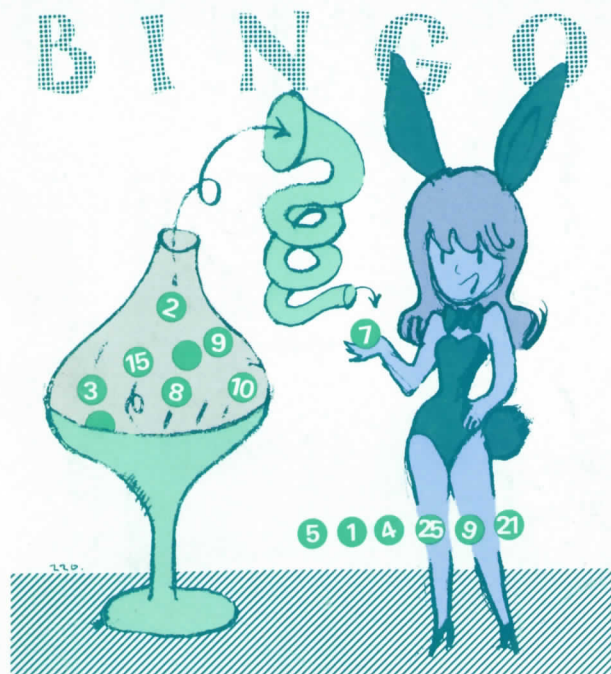
数学の創造——アンドレ・ヴェイユ

我的回憶——王元

ビンゴゲーム——西山豊

TEA TIME——篠沢秀夫・村松友視

図①



図②—カード

12	23	5	24	16
8	19	15	2	20
14	22	9	18	10
4	1	21	7	25
13	17	6	11	3

あの番組よ、もういちど——西山豊

あなたは、ビンゴというゲームをご存じですか。

それは、数字をかいたカードを使った宝くじ的遊びの一つです。

この遊びのおもしろさを知れば、きっと病みつきになってしまうことでしょう。

こういうファンのために、テレビ番組でもとり入れられたことがあります。

図②に示すように、25個の正方のます目に、1から25までの数字がてたために並べてあるカードが、あらかじめ視聴者に配られてあります。テレビ局に配置された特設の“ピッチング・マシン”から、数字をかいたボールがつつぎと飛び出していきます。(図①)

5, 1, 4, 25, 9, 21 というように。

視聴者は、かわいいパニーガールのさし出すボールの数字に、心をわくわくさせながら、カードに丸印を記入していきます。

次のボールが7であるとき、カード上の丸印は一行をつくりました。

さあ大変。

局に、急いで電話をしなければなりません。

どの列でもよろしい。たて、よこ、ななめのどれか一行できれば、あなたの好きな最新の車があたるのですから。

もちろん、ボールが5球で一行そろえば最高です。

飛び出してくる一球一球に、目をみはらせながら楽しめるビンゴ・ゲームは、宝くじの当選番号を新聞で調べるのとは違った興奮を与えてくれます。

宝くじは静かな、ビンゴ・ゲームは動きのある興奮を伝えるともいうのでしょうか。

葉書一枚の請求で、カードが一枚もらえます。

一枚のカードで車があたる確率はいくらなのでしょうが。

また、何枚ぐらいのカードを持っていれば、確実に車を手にすることができるのでしょうか。

こうして、葉書を出しつづけたとして、その投資額と見返りを比べてみて、損か得かなど考えながら確率の勉強をしてみるのも、結構楽しいものです。

(□本文 61 ページ)